

沙美地区社協だより

発行 沙美地区社協 広報部

社会福祉協議会講演会

平成二十九年六月十一日(日)

元気で長生きするために

渡辺胃腸科外科病院 院長 渡辺哲夫先生

渡辺先生には平成二十六年六月の沙美地区社会福祉協議会の発足以後四回目の講演依頼を今回も気持ち良く引き受けて頂きました。誠に有難く感謝にたえません。

先生は沙美小学校の卒業生で子供の頃から育った沙美の海、山が好きでいまもこの沙美の地を大切に生きて頂いています。地元の人達が「元気で長生きするために」四十四年の医療を通じて学んだこと、又、人として今までの多彩な経験から冗談を混ぜていかに元気で生活するかを親切に指導頂きました。又、後半には今回もサックスホーンの低音で心に浸みる懐かしい曲の数々を演奏して頂き聞き惚れて感激しました。

沙美は六十五歳以上の高齢化率が倉敷市で南浦に次いで高い地域です。お年寄りが元気で長生きして活躍していかないとこの地区は成立ちません。渡辺先生はお忙しいところ沙美の為に時間を割いて頂き今回も貴重なお話を頂きました。本日の会に参加の九十数名一同は今後も元気で過ごすべく、本当にありがとうございました。



沙美 秋祭り

平成二十九年十月十四・十五日

沙美地区社協として秋祭りを主催する初年度でした。子ども会が代々引き継いできた千歳楽の巡行を受け継ぎました。沙美小PTAの皆さんの協力と代々の子ども会の役員さんから引き継いだ方法・手順と協力とで決行できました。沙美全体の氏子の皆さんからの「花」や「寄付」をいただき約三十万円の「秋祭り振興基金」にすることができました。これは「集まった『花』は千歳楽の修理など今後の秋祭り振興の基金とさせていただきます。子ども会やPTAの役員さんの了解を得たこと、来年度の秋祭りに基金から「のぼり」や「ご神燈」を購入させていただきます。また、ご協力をお願いします。



三世代交流歩け歩け大会

平成二十九年十一月二十三日(木・祝日)

穏やかな天気にも恵まれ、四十六名が参加。南浦をお騒がせした楽しい一日となりました。沙美小学校へ、九時集合。沙美停留所(九時四十分発)から東南浦停留所まで路線バスに乗る。降車して北へ、常夜灯から、七神社へ。釣りバカ日誌ロケ地の海蔵寺で一休み。南へ、御大典記念碑から妹尾酒造本店へ。甘酒・利き酒を振舞われ上機嫌。海岸沿いに西へ、波返しの新防波堤を通り、南浦憩いの家へ。全員室内で、パンと飲み物の昼ご飯。最後にギャラリー南浦の見学。東南浦停留所(十三時三十六分発)から沙美停留所までバスで戻って解散。

井笠バスカンパニーには、定期バスに加えて臨時バスを運行していただき感謝。ギャラリー南浦の酒蔵では、丁寧な説明と接待に感謝。昨年は「中津貝塚を見学しましょう」と、今年は「路線バスで南浦に行きましょう」と題打って催しました。如何でしたか。今後も振るってご参加ください。



「挨拶

沙美地区社会福祉協議会会長

原田貞男

沙美地区社会福祉協議会も設立以来五年が過ぎました。地域住民の皆様の御協力をいただき、ニュー事業もスムーズに進行出来ています。私達の暮らす沙美地区も六十五歳以上の高齢化率が四十パーセント以上となり、年々この率は上昇します。この様な状況の中、住民間の親睦を深め助け合い支え合う事が必要です。今後も誰もが安心して暮らせる地域を目指して、色々な事業を計画しますので、友達や近所の人達を誘って一人でも多くの参加をお願いします。親睦を深めていただきますようお願いいたします。

地域に育てられ、地域に貢献できる中学生に

黒崎中学校校長 山部賢治

黒崎中学校では、校訓「自律・友愛・努力・報恩」の下、教育目標を「全人教育を推進し、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成をはかる」と定め、様々な教育活動を行っています。そして、限られた教職員でできるだけの高い教育を目指して、以前から地域との連携を図った教育課程を実施してきました。特に、「ふれあい体験学習」は、約二十年前から中学校区内の方約十名を講師として依頼し、全校生徒が講座ごとに講師の仕事場を訪問する形で実施している学習で、今年度も十一月十一日に行いました。「陶芸」「定置網漁」のような特色ある地域密着型の講座を開設し、生徒は三年間とも違う講座で学習し、毎年二年生が行う「チャレンジワーク」と合わせて、自分の将来について考えるきっかけ

けになっていきます。さらに、今年度は、教室で行う授業にも地域の教育力を導入する試みを実施しました。教科では国語(書道の授業)、音楽(琴の演奏)、技術(コンピュータ操作)にゲストティーチャーをお願いしました。その道のプロから直接教わるという体験は、大変貴重で、生徒の学習意欲も高まっています。来年度以降も、教育課程に位置づけて継続していきたいと思っています。

さて、一般的に地域連携というと、学校側の要請に対して地域が支援する形で行われるイメージですが、中学校では、地域に対する「感謝の心」「地域貢献」を重要視し、中学生に「何かしてもらえませんか。」を考えるように促してきました。今年度は、地域とともに計画・実施する行事として、保育園・小学校・中学校・地域合同の防災訓練を計画しました。学校園と消防署、地元町内会や自主防災会が一緒に計画、準備した結果、当日は地域の方約三十名が参加していただき、成功裏に終わることができました。

これからは、ますます学校と地域が「協働的」に連携していくことが求められる社会になっていきます。地域とともに生徒を育て、その生徒がやがて地域のために貢献するような、そんなよい流れを作っていけたらと考えています。



認知症声かけ訓練を実施して

平成二十九年九月から十二月実施

「さみっと」の愛称を持つ沙美小学校区小地域ケア会議の管轄地区の高齢化率は44.8%です。さみっとは沙美地区社協や民生委員など各種団体で構成され、地域が抱える課題の解決に向けて活動しています。認知症に関する地域全体への理解を深め、地域全体で力を合わせて、何とかして無事故で、患者の方々を見守っている体制を作ろうと動き始めました。

緊急連絡網の作成、沙美地区の住民の皆さんや小・中学生対象の認知症サポーター養成講座を実施後、声かけ模擬訓練を行うこととしました。

◎認知症サポーター養成講座の実施

○ふれあい交流会での養成講座（九月）

○黒崎中学校での養成講座（十月）

○沙美小学校での養成講座（十一月）

どの養成講座でも、皆さんが真剣に取り組んでくれ、認知症への理解が深まったことがアンケートの結果からうかがうことができました。

◎声かけ模擬訓練の実施（十二月）

○黒崎公民館から三方面に三人一組のチームで歩きました。あるチームでは出発してすぐの地点で黒崎中学校一年生2名に声をかけられ、家を尋ねてくれたりしました。認知症サポーター養成講座が生かされたチームで喜びあいました。山陽新聞社は記事で紹介してくださり、玉島テレビがここでも放映してくれ、ますます評判になりました。認知症は脳の病気である、過去の記憶が断片的に残り、それが現在の認識となり、症状が進むにつれて、記憶・認識能力が失われていく、だれでもなる病気、自分もなり得るということ、認知症の方への接し方など多くのことを学ぶことができました。オレンジリングを手に、SOSを発している人を察知し、やさしく接して救っていきたいと思っています。



総会后、講演と銘打って吉川様、倉藤様が御多忙中にも関わらずおいでくださり、トランプ、フラワーなど、多種多様の手品を見事に演技され、会場は大変盛り上がりしました。手を変え品を替えの手品に、お年寄りから子どもさんまで、芸に引き込まれるように熱中していたようです。



平成二十九年九月沙美地区社会福祉協議会総会を黒崎公民館において開催しました。倉敷市社会福祉協議会からは虫明正雄会長のご臨席を賜り、ご祝辞を戴きました。その後議案の審議に移り、平成二十八年度事業報告・収支決算報告の承認、平成二十九年年度事業計画・予算計画についても賛成を得て可決されました。また、今期が役員改選期であるため審議が行われ、現職全員の継続が承認されました。規約七条の改正が提案され、五つの部会に担当役員及び担当理事が組織されるという内容の修正案も可決されました。また各部会に実行委員を若干名置くことができることになりました。

地区社協総会・手品ショー

平成二十九年五月十四日（日）

ふれあい交流会

最近赤ちゃんが生まれたという話も耳にせず、公園などで遊ぶ子供の姿を目にすることも少なくなり、町内会では高齢化が進むばかりで役員のなり手に事欠くようになってきました。

「うちの町内会で赤ちゃんが生まれたで」という声を最近久しぶりに耳にしました。高齢化が進む沙美、これから先、沙美が若返るためにも若者に定住してほしい、そのためには、沙美の魅力づくりが必要です。もう一度、子どもの声があちこちから聞こえる沙美にしていきたいと願ってやみません。皆さんからのアイデアを地区社協にお寄せください。

平成二十九年九月二十四日（日）、黒崎公民館を会場に、沙美地区ふれあい交流会が催されました。天候にも恵まれ、約百五十名の入場者で、終日にぎわいました。午前中、大会議室では、認知症サポーター養成講座が開かれました。高齢者の多い地域住民の総力で支援の輪を広げていきましょう。また、ロビーや和室では、恒例のミニ健康展が愛育委員さんにより実施されました。測定者数は昨年度よりも十二名増の七十九名でした。

今年度は、岡山県立大学の辻先生に、転倒リスク発見システムのピドバランスをチェックしていただきました。参加者は自身のバランスパターンを知ることができ、転倒を防ぐためにどんな訓練をしたらよいか示していただきました。

医療生協さんにもお手伝いいただき、身長・体重・体脂肪・血圧・血流・骨密度・握力・長座体前屈・スキンチェック・足指力チェックを実施することができました。高齢化率の高い沙美地区だからこそ、健康情報に耳を傾け、毎年健診を受け、自身の健康状態を知り、健康寿命を延ばしましょう。

今年度も、あすなろ園からバスを出していただき、会場まで交通手段のなかった方々も参加できました。ありがとうございました。

昼食は、ハッシュドビーフを栄養委員さんが作ってください、みんなでおいしくいただきました。午後は、おなじみの歌声喫茶、恒例の空くじなしのビンゴゲームで、会場は大いに沸きました。今後も、より多くの住民の方々に参加していただき、健康意識を高めたり、笑顔で話を合はせたり、お互いの交流を深めたいと考えています。

